

所信

筒井 崇之

はじめに

あきたの現状や将来について話をした際、非常に残念ではありますが悲観的な内容を耳にする機会が多く感じられます。

秋田県は2040年消滅可能性都市として最も確率の高い県としてあげられたとおり、少子高齢化の加速に伴う人口減少が全国でも先行しており、地域発展の妨げになっているのは間違いありません。経済面や雇用情勢では改善傾向の兆しがみられるという情報があるものの、企業、消費者、どちらの視点でもまだまだ実感がないのが現実であります。

秋田青年会議所は戦後と呼ばれる激動の時代に、愛する郷土のために立ち上がった偉大な先人たちにより発足されました。

どのような時代、状況下においてもあきたの発展のために邁進するというこの本質は、創立から66年を迎えた今も決して忘れてはならない我々の運動の核であります。発足当時と比較するのは無意味であるかもしれませんが、物質的な欲求を満たすことが容易となり、交通手段や情報取得・発信において利便性が圧倒的に向上した今、未来について語る際に悲観的になり歩みを止めることは現代社会に生きる我々の甘えであります。

先人たちが様々な困難を乗り越え、切り開き、紡いできた歴史の上にいる我々が地域発展のためにできる唯一の道、それは歴史を紡ぎ、夢を語り、夢を信じ、恥も外聞も捨てて行動していくことでもあります。創立66年目を迎え新たなスタートラインに立った今、改めて明るい豊かな社会の実現という使命を認識し、共に走り出そうではありませんか。

少子化対策の発信

結婚、出産、子育てを安心してできるようにするためには、就労継続、長時間労働などによる仕事と子育ての両立が困難であるという問題を解決する必要があります。企業が労働環境の改善に取り組み、対象者が出産前と変わらず社会で活躍できる環境を整えば、少子化対策の促進につながると考えます。そのために多くの企業が実践できる対策を発信していきます。

永続的な環境保護の検討

あきたには豊かな自然があり、自然から受ける恩恵や影響は非常に大きく、共存し永続的に守り続けていくことは、我々にとっての幸福につながると考えます。企業に求められる環境運動の重要性も大きなものであると周知されている一方で、積極的な環境運動を実践しているのは一部の企業であります。多くの企業が実践できる環境運動について協議しその内容を伝播することで、永続的な自然環境保護の一助とします。

自立型青少年の育成

社会の変化に対応するための自己判断能力は、我々が生活する上で必要不可欠であります。子供の頃からその能力を養うことで、自立するための基礎を身につけることができると考えます。大人の子供への接し方が子供の成長へ与える影響は大きく、互いの適切な距離を測り接していくことが、子供の健全な育成につながります。学校、家庭、地域という境界を越え、子供との適切な距離を検討し、自立型青少年の育成を目指します。

若者の夢と力の発信

次代を担う若者の新たな考えや行動力は、まちづくりにおいて大きな力をもっております。しかし若者の県外流出は深刻な問題であり、その原因の一つとして夢に向かって行動することが現状のあきたでは困難であることが考えられます。あきたの若者の魅力を発信する機会を設け、あきたの若者が将来このあきたで夢を追いかけ行動し、発信できる環境づくりの一助となることで、地域の発展を目指します。

あきたの魅力発信

2011年度より開催されてきました秋田醸しまつりですが、開催当時より掲げられている市民社会資本の構築という主たる目的が達成されるためには、多くの課題が残されております。秋田醸しまつりの実施と、市民社会資本の構築に向け今後どのように秋田醸しまつりに秋田青年会議所が携わるのかを検討するとともに、あきたがもつ魅力を新たに発信することで更なる地域力の発展を目指します。

結びに

茶道、武道、芸術などにおける修行の段階を表す言葉で、“守破離”という言葉があります。まずは師からの教えなどを忠実に守り身につけていくことから始め、その後自分に合ったより良いものにすべく既存の型を破り、そしてそれをさらに発展させることで自分の型をつくり、真の創造者となるという意味であります。

この考えは仕事や人生における成長のプロセスであるとともに、まちづくりにも当てはまる考え方であると私は考えます。地域の発展のために、信念を貫き通した上で、その時代に合わせて思考や手法を変えていき行動していくことこそが、まちづくりにおいて重要であります。

創立より多くの事業を展開してきた我々秋田青年会議所ですが、また新たな一步を踏み出す時を迎えました。明るい豊かな社会の実現のために、先輩諸兄が紡いできた歴史や伝統、地域への想いを守り続けていくとともに、新たな時代の先駆者となるべく、天馬空を行くが如く地域の発展のために運動して参ります。